

会 議 記 録 (1)

会議名称	令和6年度第2回北本市文化財保存活用地域計画策定協議会
開会及び 閉会時間	令和6年11月18日(月) 午後2時00分開会、午後4時40分閉会
開催場所	北本市文化センター 3階 第1・2会議室
議長氏名	松本富雄
出席委員 (者)氏名	松本富雄、秋葉清、須田大樹(飯田徹代理)、小松政毅、堂本泰章、加藤祺 林田幸子、坂口修
欠席委員 (者)氏名	
説明者の 職 氏 名	教育部参事 磯野治司、教育部文化財保護課長 大平洋佑
事務局職員 氏 名	教育部参事 磯野治司 教育部文化財保護課長 大平洋佑、同主査 坂田敏行、同主事 船山ちひろ
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 報 告 (1) デーノタメ遺跡の国史跡指定について 4 議 題 (1) 北本市文化財保存活用地域計画の作成案の検討について ・計画序～第4章の素案について ・計画第5章素案作成に当たっての方針について 5 その他 6 閉 会

会 議 記 録 (2)

配布資料	資料 1 祝デーノタメ遺跡国史跡指定チラシ 資料 2-1 北本市文化財保存活用地域計画素案（序～第 4 章のみ） 資料 2-2 北本市文化財保存活用地域計画序～第 4 章の素案について 資料 3-1 文化財保存活用地域計画の作成例（富士市措置表） 資料 3-2 「北本の自然・歴史・文化・景色・宝物しらべ」調査結果 資料 3-3 「北本の文化財保護に関するアンケート」調査結果 資料 3-4 「地域計画」の市民ワークショップについて 資料 3-5 「将来像」作成に当たってのキーワードについて
------	--

会 議 記 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容・決 定 事 項
	司会進行 教育部文化財保護課長 大平 洋佑
松本会長	1 開 会 教育部文化財保護課長 大平 洋佑 2 あいさつ 松本会長からあいさつ 3 報告 (1) デーノタメ遺跡の国指定について
事務局(大平)	資料1に基づき、デーノタメ遺跡が国指定史跡になった件について説明。
加藤委員	デーノタメという名称は、地元でも知らない人が多いと思う。その周知が必要ではないか。
事務局(磯野)	デーノタメ遺跡の由来について説明。
堂本委員	資料1のデーノタメ遺跡の写真はどちらから撮った写真か。
事務局(磯野)	埼玉県の大川に住んでいらした元埼玉県の学芸員の方が公団側から撮った写真になる。
加藤委員	公団ができなければ遺跡は見つからなかったのではないか。
松本会長	吉川氏が綿密な踏査を行っており、それによって確認された遺跡である。公団ができる前に発見されている。
	4 議題 (1) 北本市文化財保存活用地域計画作成にあたっての検討について ① 計画第序～4章素案について
事務局(大平)	資料2に基づき事務局作成の素案を説明。序章～第4章までは事実記載になる。各委員には事前に素案をお送りしているが、今回はこの部分についての意見をお聞きしたい。
堂本委員	今年が荒川放水路ができて100年にあたる。その間にも荒川は変化していて、その価値も変化している。そのなかで近現代の扱いはどのように考えているか。

事務局(磯野)	今まで蓮沼などの旧河川については触れていなかった。ご指摘を踏まえて第 4 章などに加筆していきたい。
堂本委員	蓮沼には横堤（よこてい）もあるが、これも近代の治水技術の一種であるため、歴史性のあるものだと思う。そういったものの評価も文化財的な視点で見てもいいと思う。
事務局(磯野)	横堤は現在も機能している近代化遺産であり、優れた自然環境でもあるので、加筆をしていきたい。
松本会長	自然という観点で言うと、外来種の問題などもある。
堂本委員	そのように思う。歴史的なものが外来種の問題で変容することもある。
須田委員	災害の視点も大事。最近、必ず災害の視点を大きく扱うようにと文化庁も指導している。台地上の火災、低地の水害なども扱うべきではないか。それらを整理して措置を加えて、課題に盛り込んでいくべき。
松本会長	東側の赤堀川などを利用した新田開発の歴史がある。それだけではなく、市内には東間新田など、新田開発の歴史を示すものがあるので、整理してみると見えてくるものもあると思う。
事務局(磯野)	現案は畑作の話を中心にまとめているので、東側を中心にした新田・水田開発にも触れるように改めていく。
加藤委員	かつては陸稲がほとんどだったが、ボロボロでおいしくなかった。井戸を掘って水田を作り、水稻を食べたときは感動した。サツマイモの生産もしていたが、出荷しない米とサツマイモのご飯はおいしくなかった。
松本会長	食べ物で言えば、せんべいもある。
秋葉福会長	以前はせんべい屋が 4 軒あった。終戦直後には、東京まで自転車で出荷していた。当時は陸稲を使用しており、少しでもおいしく食べる工夫であったと思う。
事務局(磯野)	食文化は大事だが、まだ情報が拾えていない状態である。しかしこちらも重要なので、コラム的なものとかがあれば加筆を検討したい。
松本会長	食ということでとりあげていただきたいと言おうと思っていた。米（陸稲）、サ

	ツマイモはぜひ取り上げてもらいたい。
事務局(磯野)	室の構造について少しお聞きしたい。市の西側は標高が高く、ローム層が厚いので、室の造成は比較的容易だが、東側はローム層が薄いので、横坑だと天井は別材で作るなどしているのか。
松本会長	地区によって室の深さが異なり、特にローム層が厚い高台地域では、地下水が深いところにあるため、深く掘らないと室の中の温度が保てない。本宿等ロームが浅くて地下水が浅い地域では、比較的浅くても水が流れている水温の影響で一定の温度が保てる。地下水位との関係で構造が決まってくる印象がある。
加藤委員	私の家では、ロームでなく、黒土でも室が造られていた。私が子供の頃に入れるサツマイモもなく、落ちないよう穴には気を付けろとだけ言われていた。
須田委員	台地上で何を作っていたかという点、時代によっては養蚕も盛んだった時期があったのでは。そういった中でトマトなども出てきたと思う。その辺りも触れていくのはどうか。
事務局(磯野)	宮岡にもかつて地産飼育所があった。そのあたりも触れたい。あと桐箆笥の生産も含めて検討したい。
小松委員	第1章の歴史的背景の現代の項目、平成初期くらいまでしか書いていない。中期以降にトマトカレー等、文化財等を活用しようという動向が出てくるので、平成中期以降のことについても、もう少し書いた方がいいのではないか。また、未指定の文化財が数千点ということで、奉安殿も触れるといいのではないか。
事務局(磯野)	ご指摘をふまえて書き加えていきたい。また八雲神社、本宿の奉安殿については、リストに記載している。
松本会長	奉安殿というなら二宮金次郎も触れた方がいいのでは。思想的な面、勤勉と労働は近代の政策の一つである。
事務局(磯野)	リストに加えるようにする。
松本会長	校歌のなかに出てくる言葉に、地域を象徴するものが出てくる傾向がある。年代によってその違いがあると思う。地域の特性という面で、その違いを見るのも面白いと思う。

須田委員	第3章の関連遺産群8つについて、おおよそ今の方向性で良いと思うが、台地や谷津で整理出来るのが1～3番あたり、2・3番が古い時代、1番が近世、近代の歴史をふまえて現在の状況という整理が出来る。その延長上に8番があるというような説明が出来ると思う。4～6が川と道。近現代の鉄道や国道など交通の変化などを現在につながるような形で整理した方が良いと思う。
事務局(磯野)	ご意見をもとに検討させていただきたい。
事務局(大平)	② 計画第5章の素案作成にあたっての検討について 資料3に基づき、第5章の方向性について説明。 ・第5章素案作成の方針について ・市内小学校で実施したアンケートの報告 ・大人向けオンラインアンケートの報告 ・市民ワークショップの報告（1月下旬にワークショップを実施予定）
坂口委員	アンケート結果については、子供たちは3年生から社会科で地元の歴史を学ぶので、その成果が出ていると思う。普段遊んでいる場所など、地域性が出ている印象がある。
松本会長	授業で扱うことの影響は大きいと思う。子供の遊び場や生活の空間の中の文化財が結果に出ているのは面白い。これをうまく反映させられるといいと思う。坂口委員は、文化財を保護・活用するために、どういう手段があると思うか。
坂口委員	授業の中で扱っていくのはひとつの手段。総合学習で北本のことを学ぶので、そこで文化財を取り上げていくことは考えられる。いずれにしても、教員がどれだけ意識を持てるかが問題になる。
松本会長	子どもたちの成長のための材料として活用できれば、とても良い。教員の負担にはできないが、そのようなプログラムを組めればという思いはある。
松本会長	アンケートの中で文化財など役に立たないという回答をわざわざしてきた人がいるようだが、どういう背景かわかるか。
事務局(磯野)	回答の2度目のピーク（50件）のところで、否定的な回答が増えた印象。
松本会長	文化財が暮らしにうまくなじまないと感じている人々が一定数いるのは事実である。そういう人たちにどう理解してもらえるかが、工夫のしどころだと思う。

小松委員	関心のない人にどう関心を持ってもらうか。否定的な人に北本の魅力を答えてもらおうと、逆に魅力を再認識してもらえるかもしれない。計画の中で文化財保護に対する意識づけを働きかけるような内容が必要である。それが文化財の保護の必要性の理解につながるかもしれない。
須田委員	アンケートは関心のある人が答えるので、そうでない人の意見を拾うのが難しい側面がある。1月の市民向けのワークショップでは、後者の意見を集められるとよりいいと思うので、その工夫を検討してほしい。
松本会長	アンケートの作り方を工夫・検討してもらいたい。 アンケートで出てきた結果などから、将来像としてキーワードになるものがあれば各委員からいただきたい。
小松委員	「里山」など、緑に関するキーワードは外せないと思う。
堂本委員	背景として意識しなければならないのは、これまで市が保護しなければ、雑木林も文化財もなくなっていた。しかし、危機感を持たないとそれらもなくなってしまう。そのあたりをどう盛り込んでいけるかが大切だと思う。
加藤委員	残っているのは鉄道沿線部分だけで、本当の意味で緑が残っているとは言えない。
堂本委員	雑木林も文化財も、失ってその大切さがわかるもの。市職員として関心がないのは恥ずかしいくらいの気持ちを持ってほしい。
松本会長	黙っていたら失われてしまう、といったキーワードを入れていった方がいいと思う。
加藤委員	富士山のような大きなものがある所はいいが、北本はそうではない。もっと足元をみたキーワードを選ぶべき。
須田委員	身近な自然(放っておいたら失われる)という点を取り入れるのがいいと思う。歴史文化+自然を守るという流れは素晴らしい。愛着を持ってもらうことも必要なので、そこも考慮してほしい。
松本会長	外からみると自然がある。でも我々からすると今の自然環境は瀬戸際にあると思っている。保存活用には経済的なつながりも必要となる。支えていくための、維持していくための経済的なことも含めて政策面の取り組みも計画のなかに

	入れていってほしい。それと綺麗なキーワードだけでなく、危機的な意識を持てるキーワードも生み出した方がいい。
加藤委員	希望が持てる言葉を使ってほしい。既に本来の意味での里山は残っていない。いわゆる「雑木林」は実際にどれくらい残っているのか。
小松委員	危機感を持ってもらうキーワードという意味では、70年代に環境破壊が非常に大きな社会問題になっていた頃、どういう言葉が使われていたのかも確認してみたい。
林田委員	「明日はない 子どもと遊んだ雑木林 守っていきたい」という標語を考えた。
須田委員	加藤委員から「里山はない」という意見があったが、人が生業を営んでいく上で必要性をもって手入れをしている里山はないと断言してもいいと思う。今あるのは里山由来の自然ということになる。そうすると、今守っていくという点では動機がない。それを前提に、措置も含めて検討をいただきたい。
事務局(磯野)	検討したい。
松本会長	雑木林は象徴的な話だが、文化財全体が危機的な状況という話である。
事務局(磯野)	危機意識を持つキーワードというのは良いと思った。 資金面については、北本市はここ数年ふるさと納税でお金が入ってきているが、使い道が上手くいっていない。今回寄付のメニューとしてデーノタメ遺跡を入れている。それは今成功しているので、そういった文化財に使えるような制度も考えたい。昔ながらの生活と密着した里山はもうないが、今残されている数少ない自然は、昔の生活の中で培われた知恵や工夫とは違った価値をもって活用され、今に残っているので、そういうことも措置として計画の中に活かしていきたい。 4 その他 次回会議開催の案内及び素案作成予定についてお知らせ。 5 閉 会 秋葉副会長から閉会の言葉 事務局により閉会

議事のてん末・概要を記載し、その相違なきを証するために署名する。

令和 7 年 2 月 12 日

松 本 富 雄